

科目名	国際協力論特講	担当者	イケガミ キョコ 池上 清子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際化・グローバル化を特質とする現代において、国際情勢の帰趨と世界の中の日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚及び能力を身に付けることを目的とする。特に、国際社会の現実的動向、国際社会と日本との関連等に関する学問的認識を自ら学び、自ら考えることを目的とする。</p> <p>単に、経験や学修から得られた豊かな知識と教養を養うにとどまらず、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる能力を養う。さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際協力に関する理念、ミレニアム開発目標 (MDGs) と持続可能な開発目標 (SDGs) の歴史的な意義、開発と、平和、平等、公正、ジェンダー、人権などの概念との接点、開発プログラムの策定過程を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i. 開発目標であるグローバルパートナーシップのもつ意義を考えることができる。(知識・想起)</p> <p>ii. 国際援助の担い手のマッピングを知り、作成することができる。(知識・技能)</p> <p>iii. 携わる多様なプレーヤー(国際機関、開発途上国と先進国政府、市民社会、企業、財団など)の役割と課題に配慮できる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションと利用して、学生と教員の双方向の指導を受ける。 manaba folio の掲示板等を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する質疑応答、意見交換、レポートの推敲のピア・レスポンスなど)(アクティブラーニング) 図書館、インターネットで自律てきに論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 基本教材や参考文献などを熟読する。情報検索方法や自分の考えを構築することを含めて自律的な研究遂行能力を習得し、さらに、変化する社会環境や多様な価値観を読み解き、正当な批判と評価を行う理解を深め、判断力を養う。先行研究リストの中から、少なくとも1-2論文を読むこと。【SBO i. & ii.】 【20 時間/レポート1 本】</p> <p>(自主研究) レポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。【SBO ii.】 【10 時間/レポート1 本】</p> <p>(レポート作成) レポートの草案を作成する。【SBO ii. & iii.】 【5 時間/レポート1 本】</p> <p>(ディベート) manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。【SBO ii. & iii】 【10 時間/レポート1 本】</p>		
スケジュール	<p>提出期限は manaba folia 並びに学事歴記載された通りに従うこと。</p> <p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は6月末、課題(2)は7月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に沿った論理構築がなされているか。課題に関係する重要な論点をおさえているか。結論が明確であるか。結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。
	観察記録	20%	レポートの構成や表現に関して、全体の書き方、図表の使い方、引用文献などを評価する。
履修者への要望	<p>論理的であることと、自分の意見をまとめることを主眼としているので、どんな小さな観察点でも構わないので、自分の考えや気づきを大切に、レポートを書いていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 内海成治編『新版 国際協力を学ぶ人のために』 教材名： (世界思想社, 2016年) ISBN:978-4-7907-1674-7 2,800円+税
	開発の在り方に関わる諸問題について、特に開発協力の現場、理論的な国際協力の必要性、などを包括的に取り扱っている。国際協力に関与しようと思う人にとっては、様々な角度や場面での、実践的なヒントが含まれている。
参考図書	国分良成編『東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割』 (慶応義塾大学出版会, 2007年) ISBN: 978-4-76-641378-6 2,200円+税 吉田康彦編『21世紀の平和学』(第2版) (明石書店, 2005年) ISBN:978-4-75-032205-6 2,400円+税
履修上のポイント	以下の点に留意して、レポートをまとめること。 (1) 開発に向けた国際協力の効果 (2) 持続可能な開発目標の歴史的意義, 成果, 課題 (3) 開発と, 平和, 平等, 公正, ジェンダー, 人権などの概念との接点 (4) 開発プログラムの策定過程
レポート課題 1	国際協力の必要性を, 様々な角度から検討して自分なりの議論を展開する。特に, 格差の是正, 公平性などの原則を踏まえながら, 3,000字程度でまとめる。十分にこのテーマを学び, 議論していると考える場合には, 必要ないというスタンスから, 同様に必要ないことを議論する。 留意点 : 開発の理念についての議論が中心となる。
レポート課題 2	持続可能な開発の定義を理解しつつ, 持続可能な開発目標(SDGs)が内包する課題を挙げつつ, 2030年の目標達成期限までの課題を想定し, 自分なりの提案を, 3,000~4,000字程度にまとめること。 留意点 : 現在進行形のテーマなので, Web検索なりで情報を収集してからレポートにまとめること。出版されている書籍よりは論文が主となる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高松香奈 教材名： 『政府開発援助政策と人間の安全保障』 (日本評論社, 2011年) ISBN: 978-4-535-55692-8 5,700円+税
	どうすれば開発や援助が開発途上国の市民一人ひとりの生活の質を高めることができるのかという課題について, 国際協力を幅広い領域から取り上げる。ODAは人間の安全保障のために行われているだろうかの問いに, ODAの援助方法論の分析に加えて, ミャンマーでの大規模調査を踏まえ実証的に検証する。
参考図書	NPO 法人いきいきフォーラム 2010 編 『シニアのための国際協力入門』(明石書店, 2004年) ISBN:978-4-75-032027-4 2,400円+税
履修上のポイント	以下の点に留意してレポートをまとめる。 (1) 目標として掲げられる人間の安全保障のもつ意義 (2) 国際協力の担い手のマッピングを基にして, 国連機関間の調整機能と能力, 政府開発援助(ODA)の役割と課題, 国際機関の持つ独自性と課題, 市民社会, NGOsの役割と課題, 市民社会, NGOsの役割と課題を知る。特に, 調整に関する情報を収集しておく。 (3) アジアとアフリカが置かれている開発状況の違い
レポート課題 1	人間の安全保障の観点から, 開発援助との関連について, 現状と課題を分析して, 3,000-4,000字程度にまとめる。 留意点 : 人間の安全保障, 日本の開発のさまざまな開発支援の方法論などの定義を確認すること。
レポート課題 2	日本国内の援助機関・関係者の調整について, TICAD(東京アフリカ開発会議)を事例として, 現状と課題を分析して, 人間の安全保障の視点から, 3,000字程度にまとめる。 留意点 : TICADの役割にも触れること。国際協力の担い手を分析すること。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（国際協力の必要性、公平性の確保）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と話し理解の上、教材に基づく学修②（倫理的な課題）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（持続可能な開発目標（SDG s）の意義）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（開発の概念）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（平等と公平）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（男女共同参画、市民社会）（ここでは参考図書も使用する）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（平和の概念）（ここでは参考図書も使用する）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（開発と人権）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（ステークホルダー間の協調と協働）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（開発プログラムの策定過程）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、アウトラインを提出する
第 12 回	教員からレポート課題 1 に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 13 回	レポート課題 2 に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、教員と複数回のやり取りを行い、内容を再検討し、レポートの質を高める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、自ら熟考した課題の解答を最終レポートにまとめ、提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（開発援助の異なる支援形態）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と話し理解の上、教材に基づく学修②（倫理的な課題）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（開発における効果とは）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（政府間援助（ODA）の役割）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（社会的弱者への配慮の方法、特に女性）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（市民社会の役割）（参考図書）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（人間の安全保障の概念）（参考図書）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（持続可能な開発目標（SDG s）の果たす役割）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（ステークホルダーの洗い出しと関係者の役割分担）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（現状に合致する開発援助政策とその策定プロセス）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、アウトラインを提出する
第 12 回	教員からレポート課題 1 に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 13 回	レポート課題 2 に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、教員と複数回のやり取りを行い、内容を再検討し、レポートの質を高める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、自ら熟考した課題の解答を最終レポートにまとめ、提出する